



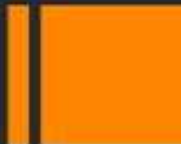
弟子の掟⑨

シリーズ～弟子道～

2011/9/4

マタイ福音書6章19～24節

19 あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。20 富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。21 あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」



22「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい。23濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」

24「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富(マモン)とに仕えることはできない。」

富を天に蓄えなさい

- 富を地上に蓄えてはならない
 - 自分のために蓄えること
 - 地上に蓄えても、価値がなくなったり、奪われたりする
- 「天に積む」とは神と人のために使うこと
 - 自分の手元には残らないが、天に蓄えられる
 - 天に積まれた富は、なくなったり奪われたりしない
- 「富のあるところに心もある」
 - 地上に心があるとは・天に心があるとは

富をどう考えるか

- 「目が澄んでいる」とは富に対する正しい考え方を持っていること
 - 目が澄んでいれば、周りがよく見え、正しい判断ができるように、富の見方が心の視界となる
- 富を正しく使える人は、豊かな人生を送ることができる
 - 金銭感覚がその人の人生の価値を決める
 - 多く稼いだ人が豊かな人生を送れるのではない

富に仕えてはならない

- 富は、その人の神となる
 - 24節の「富」は“マモン”それ以外は“シソーラス”
- 神と富の両方を大切にすることはできない
 - 「一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか」
- 富に仕えるものは神を軽んじている
 - 富に仕えるとは、富に支配されること

「マモン」に支配された社会

- そもそもお金は「交換の媒介」「価値の保蔵」のために生まれた
- 世界の投機マネーは1日150兆円！
 - 日本の国家予算の約2倍のお金が動く！
 - 投機マネーは総額1京円(1兆円の1万倍)以上とされている
- 為替・株価・原油・・・
 - マモンを崇拜した結果、マモンに支配される社会となってしまった

マモンに支配されていないか？

- 喜んで献げることができるか？
- おごったり、プレゼントすることが好きか？
- お金があれば安心だと思っていないか？
- 一文無しになっても何とかなると思うか？
- お金を貯めることを生き甲斐にしてい
ないか？
- 財産を残して死ぬことになっていないか？

弟子の掟

- 富をこの世に蓄えない
 - たくさん作って、たくさん使おう！
- 富に対する正しい考え方を持つ
 - お金のことばかり気になっていないか？
- 富にではなく、神に仕える
 - どちらを大切にしているか？
 - 金に支配されていないか？